

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2017年4月★第121号

木を使って森を元気に！ ～第2回薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ～

日 時：3月4日（土）
10：00～16：00
場 所：仙台市青葉区勾当台公園
グリーンハウス前
来場者：約 800名

仙台の中心・勾当台公園で、ストーブの暖かさと楽しさを体験し、交流できるイベントを開催しました。今年のテーマは「森林保全と木質バイオマスの活用」です。多くの来場者が訪れ、「燃料用のペレットを初めてみた」「薪ストーブについてわかりやすく説明してもらい興味がわいた」「森林整備の現状がわかった」と好評でした。



ペレットピザ窯で
焼きたてピザを試食

間伐材の積み木、
楽しそう♪



薪積みアートで
お出迎え♪

調理もできる
薪ストーブ！



●出展協力団体

株式会社アオイ技研ペレットステーション仙台、有限会社庵原林業、石村工業株式会社、株式会社ウェスタ、株式会社エイコーテレス、大崎市、特定非営利活動法人川崎町の資源をいかす会、カントリーログ仙台、株式会社くりこまくんえん、クレア工業株式会社、株式会社京阪エンジニアリング、株式会社建築工房零、株式会社さいかい産業、株式会社サスティナライフ森の家、特定非営利活動法人しんりん、株式会社スチール、仙台市、たけゆきの家有限会社高橋建設、株式会社ディーエルディー仙台営業所、有限会社デクソン仙台、株式会社徳田工務店、株式会社トコナメエブコス、登米町森林組合、豊臣工業株式会社、株式会社西村精工、特定非営利活動法人日本の森バイオマスネットワーク、宮城県森林組合連合会、株式会社モギ製作所、守屋木材株式会社

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおりて環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
- ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
- ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
- MELONの活動や環境情報を掲載した情報紙をお届けします。
- メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。

～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 「木を使って森を元気に！～第2回薪ストーブ・ペレットストーブ展示・体験フェスタ～」
- P2 東北の冬は薪・ペレットストーブで体の芯からあったまろう／「北上川の「水の神さま」の伝承と文化に触れるバスツアー GOMIDASHI? ごみ出し?」
- P3 ／「MELONかんきょうかいき」で身近な環境問題を話し合いました！
- P4 ジャーナリスト活動「学生がゆく！」／かんきょう見聞記「ウナギつなぐ家族愛」
- P5 協同組合からのお知らせ／目指せ100人！環境リレートーク 金上孝さん
- P6 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7 ストップ温暖化センターみやぎ通信／仙臺農塾
- P8 トピックス／イベント一覧／編集後記

東北の冬は薪・ペレットストーブで体の芯からあったまろう

「子どもと楽しむ薪ストーブライフ in 向山こども園」

日時：1月28日（土）10：30～13：00

会場：向山こども園 参加者：18名

協力：学校法人仙台こひつじ学園認定向山こども園
特定非営利活動法人川崎町の資源をいかす会
特定非営利活動法人フォレストサイクル元樹

「薪を販売しているお店を知りませんか？」と MELON によく電話が入るようになりました。ここ数年続けてきた活動により、薪ストーブユーザーの間で MELON が薪ストーブ・ペレットストーブの促進活動をしていることが浸透したようです。

今回のイベントでは、薪ストーブに触れたことがない市民に「ストーブの暖かさ・安全性」を体験してもらいました。薪ストーブのある生活は、子どもたちにとって



すべての教室に薪ストーブを設置している向山こども園

も貴重な体験になります。子どものいる場所では心配かもしれませんが、近づけば熱くて危険ということは子どもたちも本能的に分かるものです。教室に薪ストーブを導入している向山こども園でも特に危険だったことはないそうです。

また MELON は昨年、宮城県と富谷市に「薪ストーブ・ペレットストーブの本体購入の助成金制度を設ける要望書」を提出しました。燃料である薪やペレットを燃やした時に CO₂ が出ますが、それは木が成長する過程で吸収した CO₂ のため、全体排出量は 0 と考えます（カーボンニュートラル）。また、間伐材を使用することにより、森林保全につながります。

イベントを通して薪の入手先も紹介でき、収穫のある講座となりました。「うちでは無理」と思わずに興味があれば、一度専門家のお話を聞いてみてはいかがでしょうか。



薪割りも体験！

北上川の「水の神さま」の伝承と文化に触れるバスツアー

日時：1月21日（土）7：50～17：30

内容：1. 日高見神社見学（石巻市桃生町）

現地ガイド：大和昭彦さん（日高見神社宮司）

阿部計さん（はね娘会会長）

2. ヨシ刈り体験（石巻市北上町大須付近）

3. 釣石神社見学（石巻市北上町）

現地ガイド：岸浪均さん（釣石神社宮司）

ガイド：篠原富雄さん（MELON 水部会員）

参加者：29名

岩手県から宮城県にかけて南北に流れる北上川。石巻市追波湾に注ぎ、河口には広大なヨシ原が広がります。北上川の名前の基となったと言われる日高見神社の歴史



日高見神社で話に聞き入る参加者

と伝承を学び北上川への理解を深めるとともに、東日本大震災によって被害を受けたコミュニティやヨシ原の再生に取り組む方々を訪ねるバスツアーを開催しました。

日高見神社では、地域

に古くから伝わる「はね娘おどり」についてお話を伺いました。現在も地元の小学校ではね娘踊りを指導する授業が行われ、代々子ども達に受け継がれているそうです。

北上川河口のヨシ原は、東日本大震災による津波で半減してしまっただけでなく、同日開催された特定非営利活動法人りあすの森主催のヨシ刈り体験イベントに参加し、参加者は長さ3mもあるヨシに悪戦苦闘しながら鎌で刈っていました。

「落ちない」巨岩で受験の神さまとしても有名な釣石神社も、津波の被害を受けました。津波で流失した社務所と祈禱殿を2016年6月に再建し、地域のシンボルとして再興を目指しています。

地域の伝承や復興に取り組む方々のお話を伺い、水文化と水環境の大切さを学ぶバスツアーとなりました。

※「2016年度まちづくり人応援助成金」を活用し開催しました。



ヨシ原の中は冬でも意外と寒くない

GOMIDASHI ? ごみ出し ?

「ごみ・環境について学ぶ会」

主 催：公益財団法人宮城県国際化協会
(宮城県仙台合同庁舎7階)

日 程：① 1月17日(火) ② 1月20日(金)

参加者：① 日本語中級者8名
② 日本語初級者18名※通訳含む

「日本に来て間もない外国人向けに、ごみの分別講座を開催してほしい！」そんな依頼が4R推進部に届いたことから始まった今回の講座ですが、準備から実施までに紆余曲折がありました。講座は、日本語初級者向けと中級者向けの二つに分けて開催しました。中級者は日常会話であればほとんど問題なく話せるレベルですが、初級者は通訳を介さないと聞くも話すもできないレベル。また参加者の出身国も多種多様なため、初級者の講座では言語ごとに通訳が入り、「相手に分かりやすく伝えるにはどうすればよいか？」を普段以上に考えさせられる講座になりました。



話す言語ごとに通訳を入れて講座を実施

話の内容を考える際、「日本語が分からない人たちに細かい分別のことを伝えても、果たして実践してもらえるのだろうか？」そんなことを思っていました。モヤモヤしつつも、最終的に「集積所に出す」「指定袋を使う」

「分別する」「決まった曜日と時間帯に出す」という基本的な部分を分かり易く伝えることにしました。「座学だけでは伝わりにくいので、体験できる講座にしてください！」という要望もあり、実際に家庭から出たごみを分別してもらい、解説しながら進めました。



座学のあとに、みんなでごみの分別体験！

今回の講座で、国によってごみ出しのルールや基準が違うこと、基本的には参加者のどの国でも最低限の分別を行なっていること、日本に来た外国人がぶつかるごみを出す際の問題点などを知ることができました。誰もが気持ちよくごみ出しを行える環境、それを整えることも、環境問題を考えていく上で必要なことかもしれません。

講座の最後に、七夕飾りで使われた竹をリメイクしたおもちゃ「ゲコゲコガエル」をプレゼント。みなさん初めて手にしたようで、独特の音を楽しんでいたようです。楽しみながらごみ分別を考えるきっかけになれば嬉しいです！



プレゼントに配ったゲコゲコガエルは大好評でした♪

「MELON かんきょうかいぎ」で身近な環境問題を話し合いました！

①日 程：1月21日(土) 場 所：501会議室

参加者：8名

②日 程：2月5日(日) 場 所：MELON 会議スペース

参加者：7名

みなさんがMELONに入会したきっかけはなんですか？色々あると思いますが、少なからず環境問題について思うところがあって入会されたものと思います。その「思うところ」を話し合える場として生まれたのが、「MELON かんきょうかいぎ」です。参加者のみなさんが考える身近な環境問題を、ワークショップ形式で出し合ってもらいました。

考えてみると、「MELON 会員」ということが分かっ



付箋に書かれた環境問題をテーマごとに分けず

て集まる機会というのは少ないですね。部会の例会ならば会員同士と分かっていますが、各部会で集まって活動しているため、今回のように自由なテーマで部会をこえて集まる機会は少ないように思います。

参加者からは、「同じ思いを持つ人たちと交流できてよかったです」といった感想が聞かれました。今後はもう少し参加者を増やし、問題提起だけではなく、解決へ向けて行動するためにどうすればよいかを話し合っていきたいと思います！

ジャーナリスト活動「学生がゆく！」 ～無農薬・無化学肥料の固定種野菜を広めたい！～

日 時：12月17日（土）10：00～11：30
取材先：自然農場 風天（柴田郡村田町小泉賀籠沢85-2）
取材対応者：中山建さん

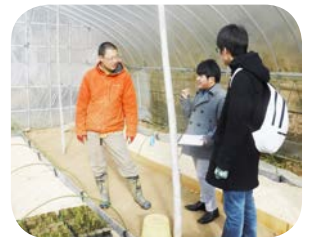
情報センターでは、企業や団体が行っている環境に関する取り組みを学生と一緒に取材し、WEBサイト等で情報発信しています。ジャーナリスト活動「学生がゆく！」第2回目は、自然農場



自宅から一番遠い畑にて、
イキイキと語る中山さん

風天の中山さんにお話を伺いました。「環境配慮」を意識しているつもりはないとご本人は言いますが、除草剤を使わずに草刈りをしたり、収穫も機械を使用しないため排気ガスが出ないことなど、環境に配

慮された取り組み方をしています。中山さんは脱サラして農業界へ飛び込んだチャレンジャー。「職業の選択」を控えている学生にとって、取材活動を通して直接仕事のお話を伺うことは貴重な体験だと感じました。



野菜の育て方についてもたくさん
質問していました

取材活動に挑戦した学生2名は、昨年10月に開催した取材・ライティング講座で学んだ学生です。質問事項を準備して臨み、じっくりお話を聞くことができました。講座で学習した内容を実践することができ良い体験になったようです。取材記事はWEBサイトにアップしています。ぜひご覧ください！

情報センターのページ

<http://www.melon.or.jp/melon/zyouhousenta.html>

→「MELON ジャーナリスト活動 学生がゆく！」

→ 第2弾「無農薬・無化学肥料の固定種野菜を広めたい！」をクリック



ウナギつなく家族愛

落語篇④

三代目古今亭志ん朝

「子別れ・下」

石垣政裕（MELON 理事）

たいこもちがウナギを食べたくて涙ぐましい努力をする「鰻の幫間」、武士がウナギ屋を開いて苦勞をする「土族のうなぎ」など、江戸庶民の生活には、ウナギが登場してくる話が多い。それだけウナギはたくさん食べられていたのでしょう。

今回は、人情話の名作「子別れ・下」を三代目古今亭志ん朝（落語名人会24、志ん朝16、ソニー・ミュージックエンタテインメント、1995年）で聞いてみましょう。

おいらんを家に引き入れたため、女房に子どもを連れて逃げられてしまった熊五郎は、改心して酒も断ち、まじめな大工として仕事に精を出しています。あるとき、思いもかけず息子の「きん坊」を見つけ、母親の様子などを聞き出します。小遣いに五十銭を与え、「今度おまえが大好きだったウナギを食べさせてやる」と。しかし、このことは母親には内緒に

しておけと釘を刺すのでした。しかし、母親は息子が持っていた銭を見つけ、てっきり盗んだものと厳しく問いただすのでした。約束を守ろうと口を閉ざす息子に、母親は「これはおとつあんの金槌だ。おとつあんがおまえをたたくのだ」と金槌を振り上げます。息子はとうとう白状してしまいます。

約束の当日、子どもがウナギ屋に行くと、母親はいても立ってもいられなくなり、ウナギ屋へと顔を出してしまいます。「子はかすがい」という別題があるように、このお話は子どもを仲立ちにして絆りを戻す夫婦のおかしみを描いています。

ウナギは栄養価が高く、万葉集にも出ているように昔から食べられていたそうで、「子どもがウナギ？」などと喉をゴクリと鳴らす方もいらっしゃるでしょうが、江戸時代は体の弱い子どもにも食べさせていたそうです（蟻川トモ子「江戸の魚食文化」有斐閣、2017年1月）。このお話でも子どもがよく食べていたことが語られます。

昨年出版された宮城県レッドデータブック（2016年3月）を開くと、ニホンウナギは準絶滅危惧種になっています。環境省はウナギがすみやすい川を保全したり再生する方針を立てたようです（朝日新聞2016年9月17日）。「再生」という言葉の意味が文字通りであることを願っています。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～

SVO コージェネレーションの取り組み

みやぎ生協は低炭素社会の構築に向け、省エネ機器の導入などCO₂削減に取り組むとともに、再生可能エネルギーの普及拡大をすすめています。太陽光発電を15事業所に設置し、風力発電事業や木質バイオマス発電事業に出資参画しています。新たにSVO コージェネレーション発電機をリサイクルセンターに設置し、更なるCO₂削減に取り組んでいます。

このシステムは、店舗などで調理に使用した油を回収し、フィルターを通して物理的な処理をした後、SVO（ストレート・ベジタブル・オイル）として活用します。発電した電気はリサイクルセンター内で利用し、発電による廃熱は温水でタンクに回収され、燃料タンクの加温や洗浄用の温水などに利用しています。

SVOを燃料としたコージェネレーション*の導入は全国初で、今後毎年1～2台を導入する見込みです。この取り組みで「低炭素杯2017」にエントリーし、ファイナリスト26団体に選出され優秀賞をいただきました。

※コージェネレーション：熱と電力を同時に利用するエネルギー供給システム



低炭素杯の会場にて



目指せ100人！ 環境リレートーク



第64人目の執筆者

かながみ たかし
金上 孝さん

(ひっぽ電力株式会社)

宮城県の最南端、丸森町^{ひっぽ}地区から寄稿させていただきます。面積の80%が森林ともいわれる豊かな自然に囲まれた当地区には611人が暮らしています。昔ながらの山里の景色、人のつながりが色濃く残る暮らしの環境は、福島第一原子力発電所の事故が影響し一変。福島県北部に隣接する当地区はいまだに不安と深い停滞感と向き合う日々が続いています。

そんな中で、この山里の豊かな自然をいかして地域を再興させようじゃないか。そんな思いから再生可能エネルギーの取り組みを通じて希望の種を蒔こうと、震災からちょうど5年が経つ平成28年3月11日、地元の有志7名が中心となり、ひっぽ電力株式

会社を設立しました。

昨年の秋にはたくさんの方々に資金のご支援をいただき、廃校となった旧中学校の校庭に50kwの太陽光発電所を建設。皆さまとともにパネル設置も行い、この取り組みを通じてたくさんの方々と出会い、つながることもできました。

私たちは皆さまのご支援の1つひとつを大切に積み上げながら、この取り組みを大きな希望へとつなげていきたいと考えています。

<連絡先>

ひっぽ電力株式会社

ホームページ：<http://hippodenryoku.com>

メールアドレス：info@hippodenryoku.com

… 次号執筆者紹介 …

ふだなおし
布田直志さん（特定非営利活動法人 笹舟）



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.76

すでに始まっている損失と被害！～COP22（マラケシュ会議）報告会in仙台～

日 時：2月11日（土）13：30～16：00
 会 場：仙都会館8F会議室
 報告者：深草亜悠美さん
 （認定特定非営利活動法人FoE Japan）
 ケンタロ・オノさん
 （キリバス共和国名誉領事館名誉領事・大使顧問）
 コーディネーター：長谷川公一さん
 （MELON理事長、東北大学大学院文学研究科教授）
 参加者：43名



パネルディスカッションの様子
 （左から、オノさん、深草さん、長谷川理事長）

2016年11月7日～18日にかけて、モロッコ・マラケシュで開催されたCOP22。今回の報告会では、COP22に参加した深草さんから会

議の様子や結果について、オノさんからは地球温暖化最前線国であるキリバス共和国の現状やキリバス政府の対応について報告いただきました。パネルディスカッショ

ンでは、長谷川理事長がCOP22の日本の対応と米国トランプ政権の影響等の情報提供を行った後、参加者も交えた質疑応答や意見交換を行いました。

アジアの途上国では異常気象で農業に大きな影響が出ており、再建に必要なサポートも少なく、貧困層がより被害を受けているそうです。また、低海拔環礁国のキリバス共和国では、海岸浸食などによって飲み水が塩水化し飲めなくなったり、海の生態系が変わり主要な食料である魚が獲れなくなりつつあるそうです。このような現状をうけキリバスでは、政策の全てに気候変動についての言及があるとのこと。長谷川理事長からは、トランプ政権の発足により途上国援助の大幅削減や世界的な関心の低下等についての懸念が述べられました。

私たちにできることとして、深草さんからは「メディアへの働きかけや政策提言」、オノさんからは「地球温暖化問題を自分事としてとらえること」というアドバイスも。温暖化による損失と被害はすでに現実になっています。私たち一人ひとりがアクションを起こすことが必要です。

受講者4,200名超！キリバス環境出前講話

2016年6月～2月にかけて、講師のケンタロ・オノさん（キリバス共和国名誉領事館名誉領事・大使顧問）と共に県内各地を巡りました。実施は小中高校、大学など21校、受講者約4,200名となりました！

受講者の感想を紹介します。「講話を聞くまで、温暖化は人にはまだ害がないと思っていたが、キリバスの現状を知りびっくりした。もっと温暖化のことを知りたいと思った」「とても美しくキレイな島国がなくなるかもしれない現状を悲しく思った。他人事ではなく、出来ることから進んで行きたい」



たくさんの写真を使って
 キリバスについて伝えるオノさん

この講話を通し、キリバスや地球温暖化について興味を持ってくれる人が増えると嬉しいです。

未来のために、いま選ぼう

日本が掲げた温室効果ガス削減目標を達成するために、私たちの暮らしから排出される温室効果ガスを約40%削減しなければなりません。ストップ温暖化センターみやぎでは、宮城県の家から最もCO₂排出量が多い「自家用車」「暖房」「給湯節水」の分野を中心に、家庭でできる簡単な対策方法などをまとめた「みやぎCOOL CHOICE入門書」を作成しました。

この入門書を参考にみんなで「COOL CHOICE（=賢い選択）」を実践し、家庭からのCO₂排出量を削減していきましょう！部数に限りはありますが、ご希望の方はストップ温暖化センターみやぎまでご連絡ください。



みやぎCOOL CHOICE入門書

次世代へ繋げよう～低炭素杯2017～

2月16日（木）東京都千代田区「日経ホール」にて「低炭素杯2017」が開催され、宮城県からは計3団体がエントリーしました。

「SVO コージェネレーション発電機によるCO₂削減」（詳細は、P.5「各協同組合からのお知らせ」参照）に取り組んでいるみやぎ生活協同組合がファイナリストに選ばれ「優秀賞」を受賞。株式会社サイコーと尚綱学院大学 環境活動サークルFROGSは、ファイナリストに次ぐ優秀な成績を収めた団体として「優良賞」を受賞しました！（エントリー内容は、右記参照）

今年7年目を迎えた「低炭素杯」は、全国各地から地球温暖化防止に向けた取り組みが一堂に集まる一大イベント。各団体によって取り組み内容はさまざまですが、どの団体も共通している熱意と温暖化防止に向けて一生懸命取り組んでいる姿がとても心強く思いました。

株式会社サイコー

スーパーマーケットと連携し、一般家庭から持ち込まれた古紙の重量に応じたポイントを付加し、商品券を発行する「古紙リサイクルポイントシステム（RPS）」



回収した紙類は圧縮され再生紙に

尚綱学院大学 環境活動サークルFROGS

大学祭におけるエコステーションの設置、カーボン・オフセット※

（※どうしても削減できない温室効果ガスを別の削減活動に投資することで埋め合わせをすること）



尚志祭エコステーション

仙臺農塾

大人の食育プロジェクト

第4回「はちみつができるまでを聞いてみよう」

日時：2月18日（土）14：30～16：00

会場：ピッツェリア・パドリーノ・デル・ショーザン
（仙台市青葉区上杉2丁目1-50仙台勝山館1階）

ゲスト：石塚武夫さん（石塚養蜂園代表）

参加者：25名

丸森町を拠点に養蜂業を営む石塚武夫さんをゲストにお招きし、養蜂園で採取された複数のはちみつをアレンジした料理を味わいながら、普段知らない養蜂業のいろはや特長について学びました。

普段営む転地養蜂は、季節によって場所や作業内容もさまざまだそうです。取り扱うミツバチの飼育群数は800群（※1群＝巣箱一箱分として換算）を数えると言います。春先には「養蜂家として一番心が躍る」採蜜の作業に従事し、春から初夏にかけては巣箱を持って県内を中心にあちこち蜜源を求めての巡回。夏から秋にかけてスズメバチの駆除



採蜜作業を実演。
ナイフで蜜蓋を少し傷つけると
蜂蜜が出やすくなるそうです

作業に注力するのだそうです。

お話の途中で「トチ」「百花」「柿」「ソバ」「菜の花」のはちみつをスプーンにたらして試食しました。比較的なじみがあると思われるものから、少し癖はあるけれど濃厚なもので、どののはちみつも個性豊かな味わいであることが実感できました。

蜂は暑さに弱く、山の中の木立ちに囲まれた静寂な環境を好む傾向があると言います。石塚さんは養蜂を身近に親しんでもらうため、耕野地区にある自身の養蜂園も含めて都市住民との交流の場（KOYA BEELAND）を創ろうと計画しているのだそうです。野山に生息するミツバチの生態について理解を深めることが、結果として蜜源となる豊かな自然環境や農業を守り育てる「一歩」につながってゆくと確信した講座となりました。



道具を手にとってもらいながら、
採蜜までの工程や取り扱いなどを説明

「電力自由化セミナー(仮)」開催

電力自由化の認知度向上と、環境に配慮した電力会社への切替えが促進されることを目的としてセミナーを実施します！電力自由化の制度や現状、消費者が気を付けるべきポイント、相談窓口等、基礎的な情報提供と、東北地方における環境に配慮した新電力会社の取り組みを紹介しします。ぜひご来場ください！



日時：5月20日(土)
13:00～15:30 (12:30開場、16:00閉場)
会場：エルパーク仙台6F ギャラリーホール
(入場無料)

宮城県の河川整備計画(素案)へ 意見を提出しました

2017年1月6日から2月3日にかけて、宮城県が作成した今後の河川整備に関する計画(素案)についての意見募集が行われました。今回募集された①七北田川水系、②砂押川水系、③高城川水系、④北上川圏域の4つの素案に対し、七北田川水系、北上川圏域の2つについて水部会として意見を提出しました。

七北田川水系については中野堰の水辺空間としての再生や「蒲生干潟自然再生協議会」の活性化などについて、北上川圏域については河川整備計画の事後評価のあり方や地域活性化を含めた観光・交流の利活用などについて提案しました。

水部会でのこれまでの調査・活動を活かし、今後も提言活動を積極的に行っていきます。

編集後記

- 最近、人の縁って不思議だと改めて感じます。居住地の遠近に関わらず色々なところで出会う縁のある人っているんですね。そういう人のつながりを大事にしたいと思います。(小林)
- 最近、保温調理で炊き込みご飯をよく作っています。「牡蠣ごはん」はプリプリして絶品です！作ってから3時間くらいたってホッカホカ♪思わず、おかわりしちゃいます。。。 (菅田)
- 私事で恐縮ですが、本年3月をもってMELON事務局を離れることになりました。4月以降は水部会並びに食部会でそれぞれ活動に関わってゆく予定です。事務局員としては短期間の経験となりましたが、今後は会員という立場でよろしく願いいたします。(玉澤)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

4/7(金)	4R 推進部会 例会
4/8(土)	「MELON かんきょうかいぎ」開催 水部会 例会
4/12(水)	仙臺農塾 Vol.5 第5回 「美味しいハムの選び方」開催
4/13(木)	情報センター 例会
4/14(金)	エコ住宅部会 例会
4/22(土)	「新緑祭」にブース出展
5/13(土)	「生物多様性と私たちの暮らし ～宮城県薬用植物園 見学会～」開催
5/16(火)	自然エネルギー等普及プロジェクト 例会
5/17(水)	仙臺農塾 Vol.5 第6回 「日本食の基本 出汁、削りの旨味 ～意外と種類があるんです～」開催
5/20(土)	「電力自由化セミナー(仮)」開催
5/25(木)	MELONcafe 企画部 例会
5/27(土)	「ハーブ講座(仮)」開催
6/3(土)	「石巻・南三陸バスツアー(仮)」開催
6/4(日)	広瀬川水質調査
6/7(水)	仙臺農塾 Vol.5 第7回 「山の恵みと保存食 ～人の知恵が生んだ美味しさのひみつ～」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

648 名

法人 67

任意団体 11

個人 570

2017年2月28日現在



ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON 協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL <http://www.melon.or.jp/melon/>

落丁・乱丁の場合は、MELON 事務局までご連絡ください。



この印刷物は、輸送・マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。